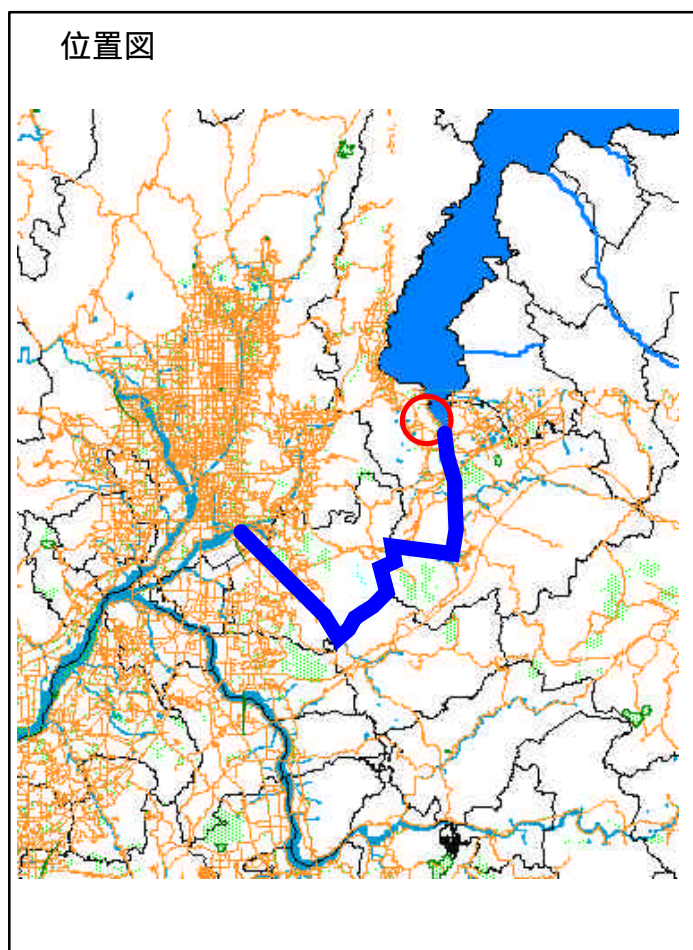


説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.39	行	15行目
事業名	大津放水路事業		河川名	大津放水路			
府県	滋賀県	市町村	大津市		地先	石山寺一丁目 ～若葉台地先	

現状の課題
 大津市南部を流下する8河川の流域は、都市化が進み資産が集積しており、河川の流下能力が小さく、たびたび浸水被害が発生している。

河川整備の方針
 下流の破堤の危険性を増大させる無堤部の築堤等は、下流の河川整備の進捗状況等を見て判断することが原則であるが、既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である区間等については、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

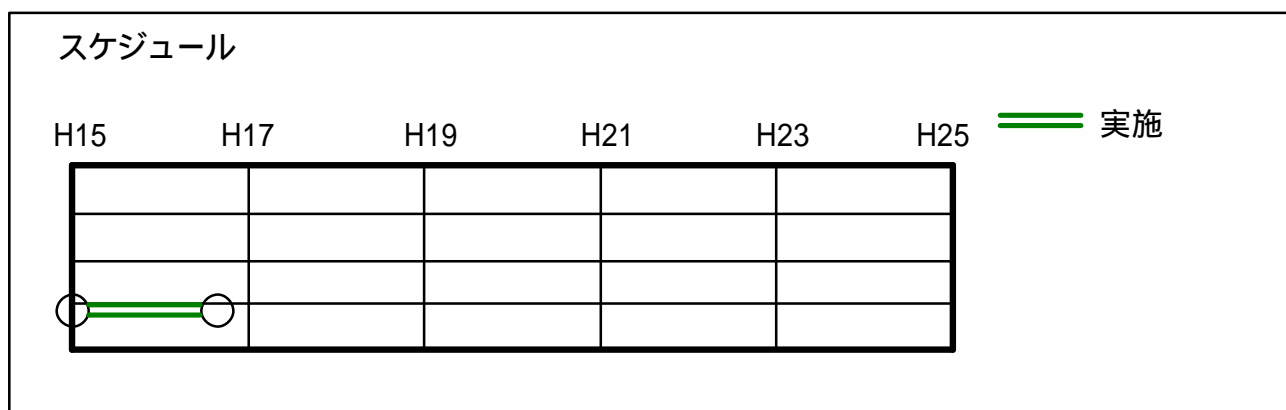


具体的な整備内容
 一連区間整備の完成等
 大津放水路(トンネル放水路)を一期区間(瀬田川～盛越川まで)のうち、盛越川分水工、瀬田川合流部処理の継続実施する。

- 事業の数量 諸元等**
 開削水路部 L= 249m
 トンネル部(NATM) L= 411m
 トンネル部(シールド) L= 1,783m
 分水施設 3箇所(三田川、狐川、盛越川)
 橋梁 1橋
- うち整備計画期間内の数量 諸元等**
 開削水路部、シールド区間、盛越川分水施設、三田川分派施設、各管理設備

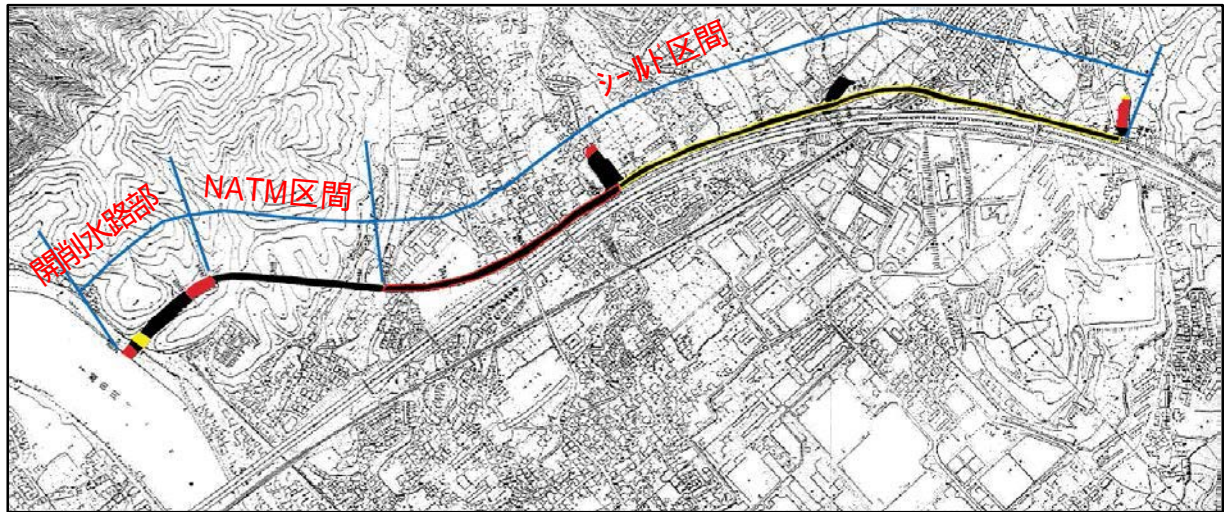
事業費


全体事業費	641億円
・うち執行済	580億円
・うち整備計画期間内	61億円
・うち整備計画期間以降	0円



平面図 (機構図、体制図)

大津放水路第一工区残事業



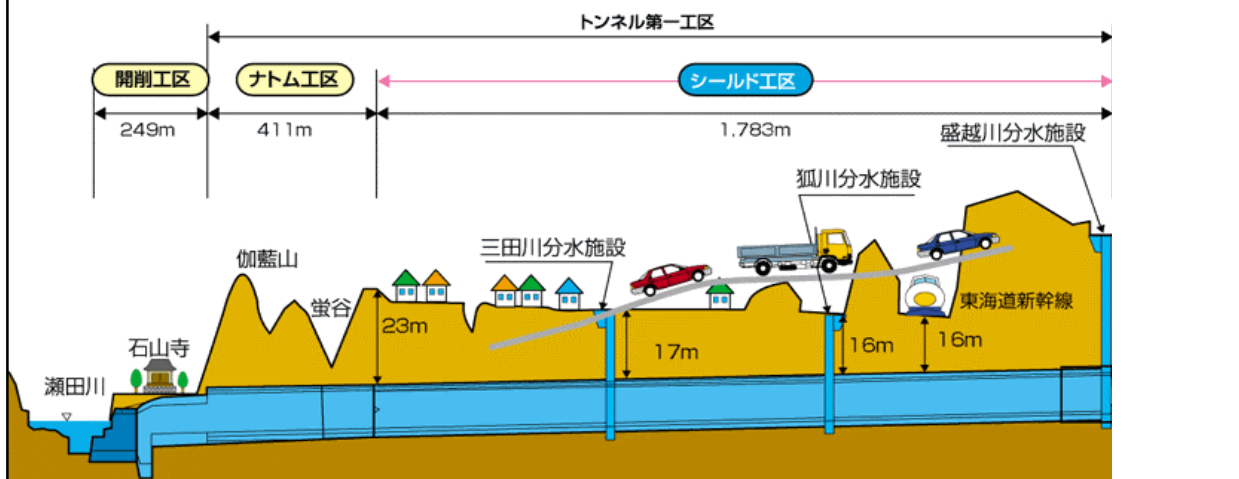
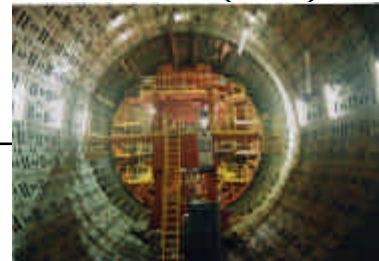
 大津放水路第一工区残事業

横断図 (構造図、フローチャート)

狐川分水施設



二次覆工 (セトル)



整備効果

～ 被害状況 ～



三田川 (昭和57年7月 台風10号)



狐川 (平成元年9月 秋雨前線)



盛越川 (平成元年9月 秋雨前線)

浸水範囲

被害の比較 (第 期工区完成時)

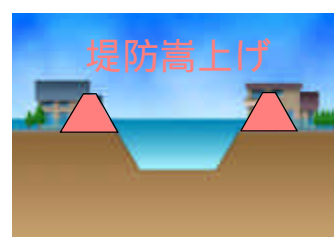
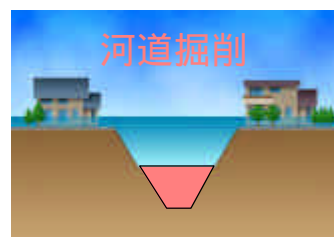
放水路を 建設する前だと、	被害額	床上浸水世帯数	浸水面積
	1560億円	1402世帯	396ha
放水路が 完成していれば、	1,320億円	923世帯	340ha



提案理由 (代替案含む)

河川改修方式

- ・河川を拡幅し河積を拡大することで流量の増加を図る
- ・河道掘削を行い河積を拡大することで流量の増加を図る
- ・現況堤防を嵩上げし、強化することにより氾濫を防ぐ



現況河川の沿線には、住宅が密集し用地を確保することは極めて難しく、これらの改修を行うことは困難である。また、河道掘削だけでは計画流量が確保出来ない。

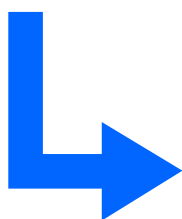
ダム方式

- ・上流域にダムを構築し放流量の調整を行うことにより下流域の安全確保を目指す

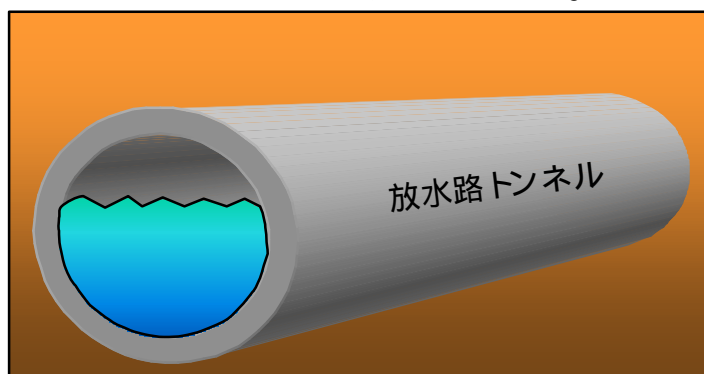


流域面積が小さく治水効果が発揮できる候補地がない。

放水路方式が有利



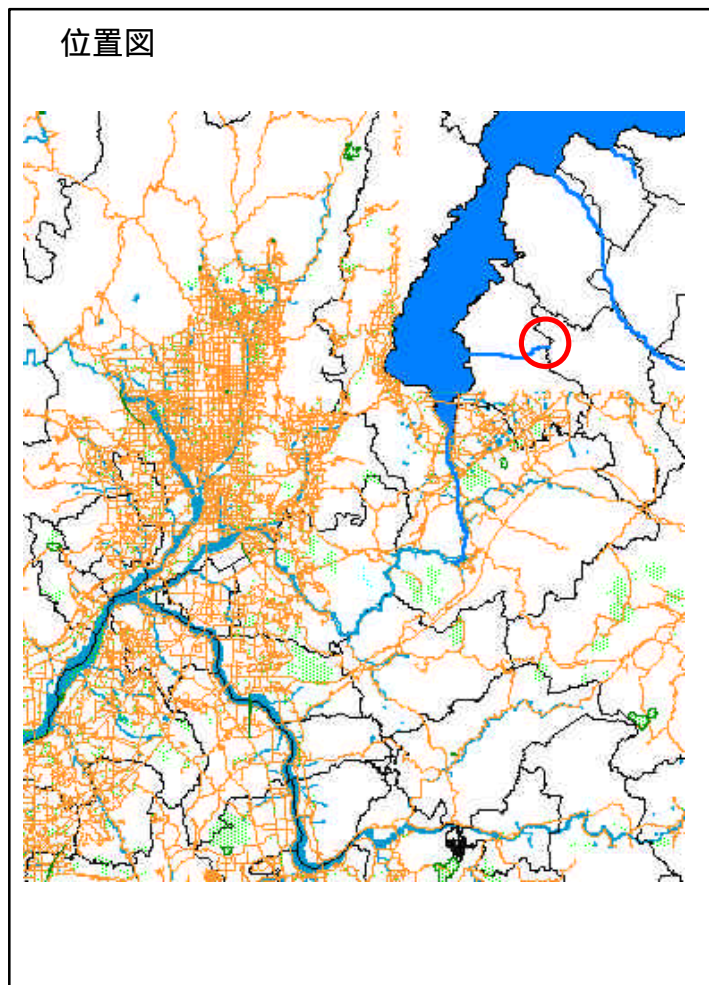
洪水を新たな河川によって現状河川から分水し、影響の少ない他の河川に放流する方式。また、地下構造としていたため周辺地域に対する影響は極めて抑えた方式である。



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.40	行	19行目
事業名	草津川		河川名	草津川			
府県	滋賀県	市町村	草津市		地先	-	

現状の課題
 かつて天井川であったため破堤による甚大な被害を受けていた。それを解消するため、平地化を目的に放水路事業を進めてきた。草津川では引き続き整備中である。

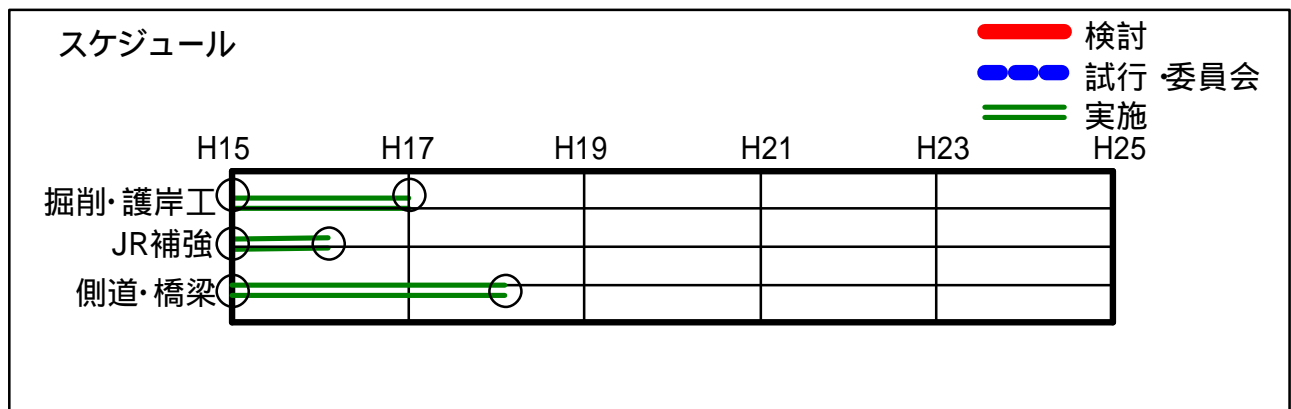
河川整備の方針
 既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である区間等については、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

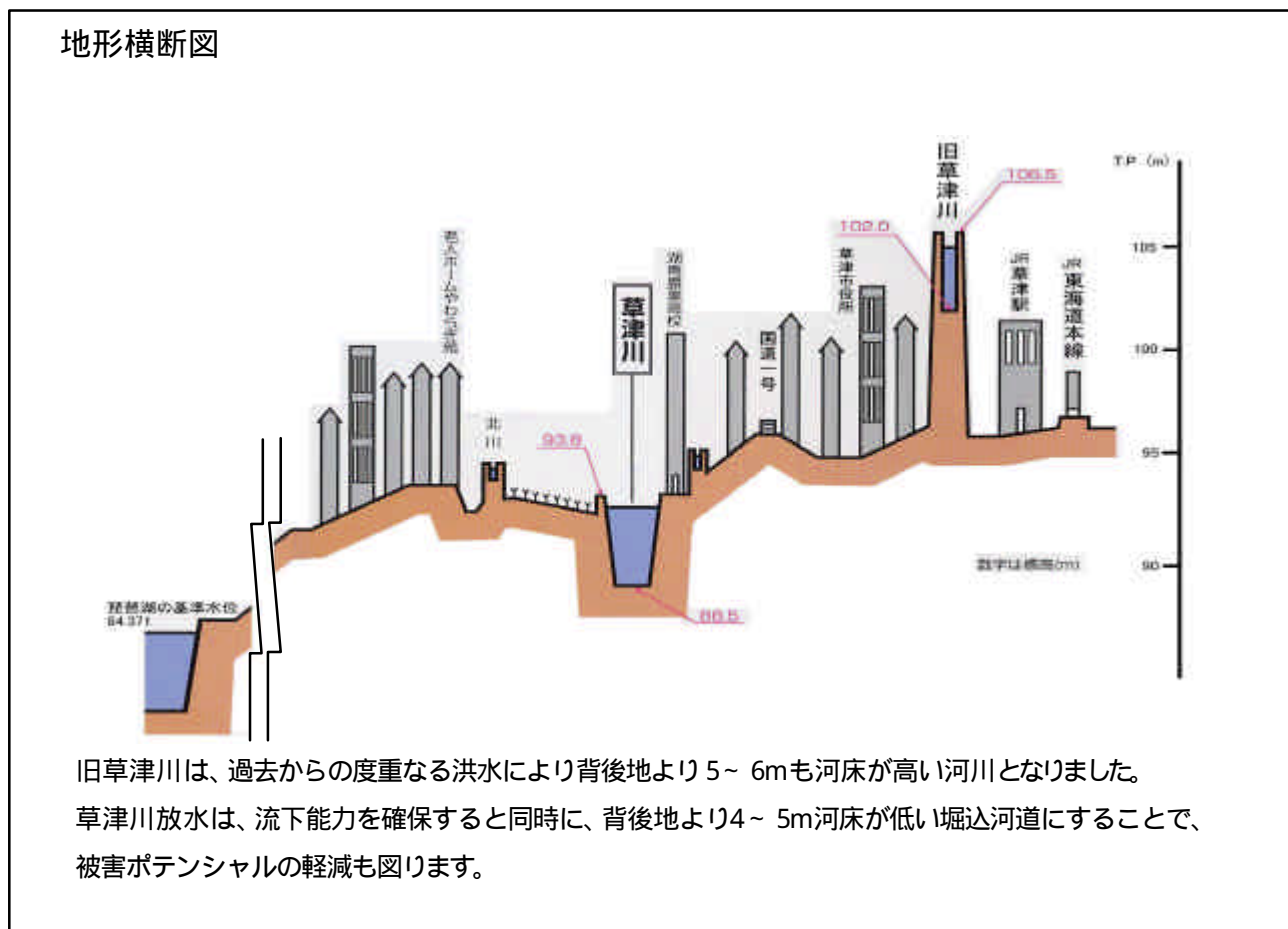
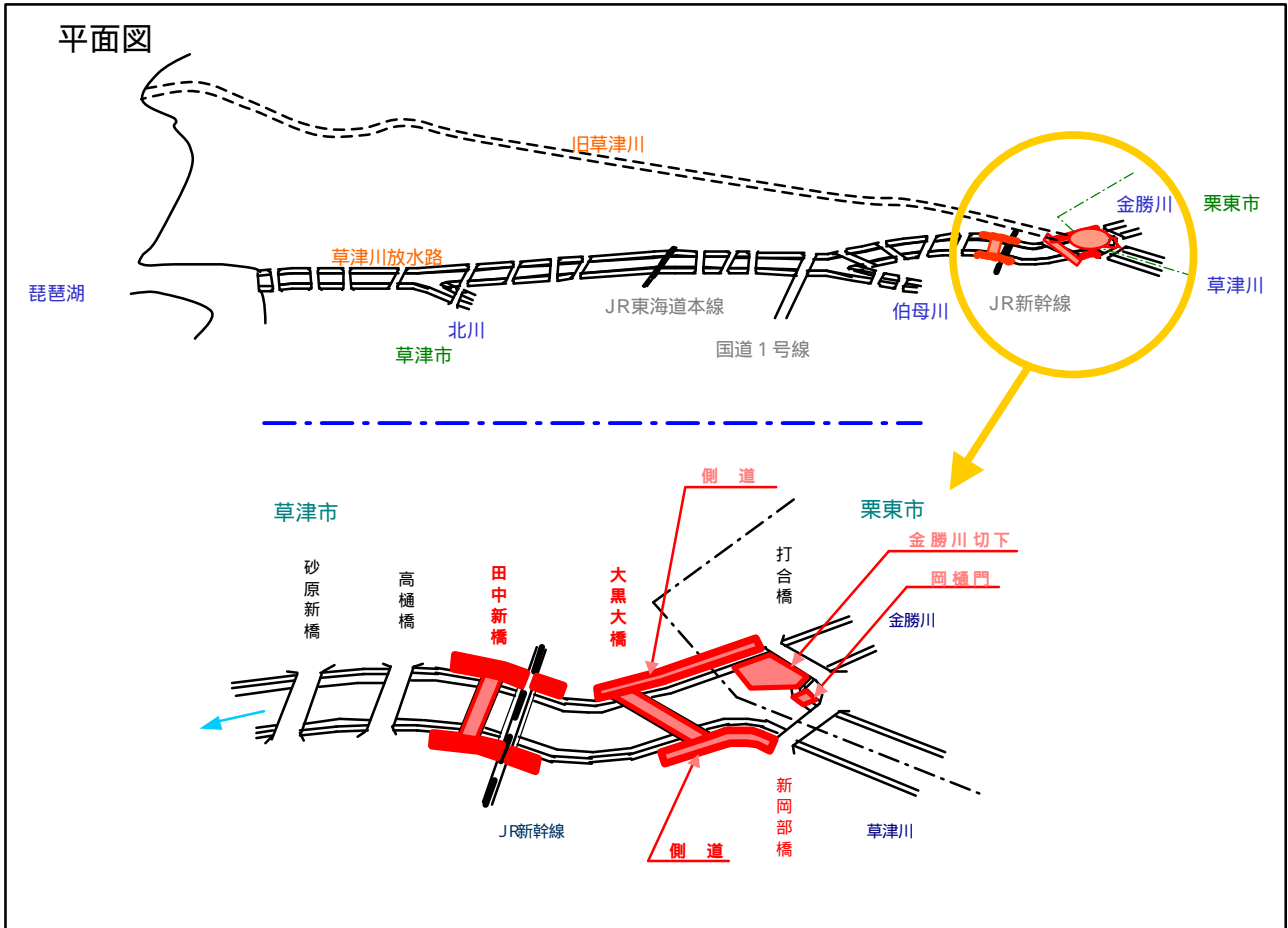


具体的な整備内容
 ・金勝川取付工及び橋梁架設を継続実施する。

事業の数量 諸元等
 放水路延長 5.5km
 計画高水流量 800m³/s
 掘削工 L= 5.5km
 護岸工 L= 11.0km
 橋梁 N= 19橋
 床固工(落差工) N= 1基

事業費
 ・全体事業費 約 834億円
 ・うち執行済 約 800億円
 ・うち整備計画期間内 約 34億円
 ・うち整備計画期間以降 0円





整備効果

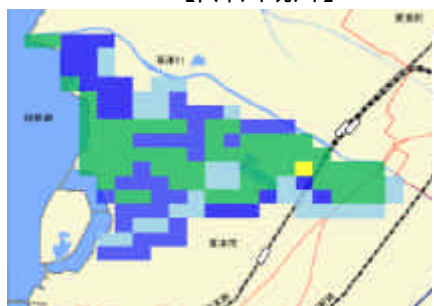
草津放水路の治水効果

【草津川現川】	
流下能力	約150~170m ³ /s程度 上流域50mm程度の降雨で警戒水位を突破
天井川	5~6mも背後地より河床が高い
川幅	40~50m程度 河口ほど狭くなっている
直轄延長	7.5km
流域面積	36km ²

【草津川放水路】	
流下能力	基準地点800m ³ /s S28.13号台風の1.7倍(降雨434mm)の降雨でも安全 S28.13号台風は草津川の堤防が破堤して、浸水家屋は12,000戸にも及んだ
天井川解消	河床は背後地より4~5m低い
川幅	河口部 100m 中流部 80m 上流部 40~60m
直轄延長	5.5km
流域面積	48.3km ²

既往最大洪水の2倍相当の雨量で、草津川放水路により氾濫被害は約3分の1以下に減少します。

【草津川現川】



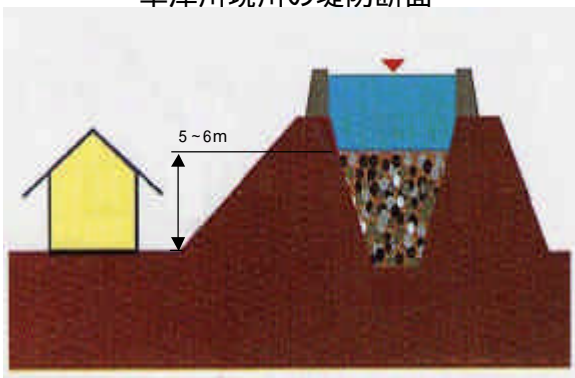
破堤氾濫(左岸6.4km地点で破堤)
左岸6.4km付近 浸水面積1,000ha
最大湛水深2m以上
被害額 約3,500億円

【草津川放水路】



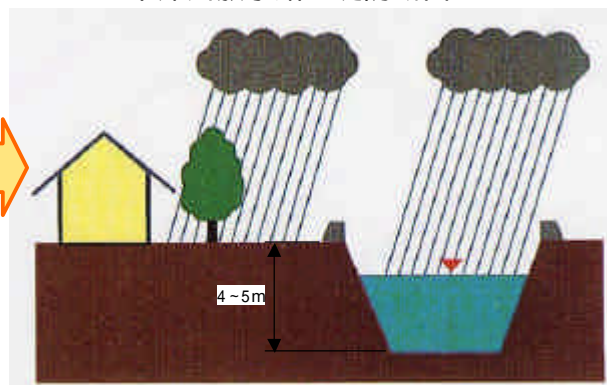
破堤氾濫(右岸5.1km地点で破堤)
右岸5.1km付近 浸水面積400ha
最大湛水深1.5m以上
被害額 約1,000億円

草津川現川の堤防断面



草津川現川は、全国でもめずらしい天井川で洪水が起こった場合には重大な被害があった。

草津川放水路の堤防断面



草津川放水路事業により 掘込河道となり安全な河川となった。

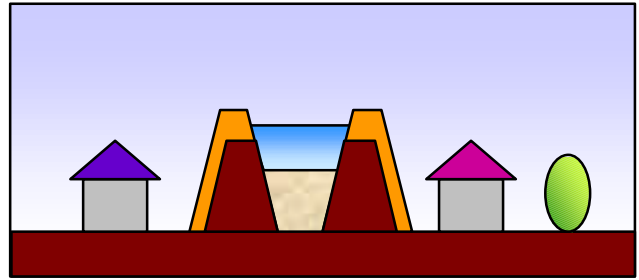
継続事業の必要性

草津川放水路事業により 現道が通行出来ないため、周辺住民は仮設橋梁及び迂回を強いられており、継続事業を早期完成することで、**周辺住民の安全面及び生活面回復**が図れます。

提案理由 (代替案含む)

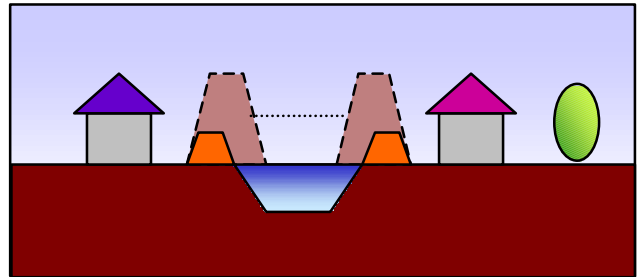
堤防嵩上案
概算事業費 約 720億円

被害ポテンシャルを増幅させる。
過去の対策の繰り返し



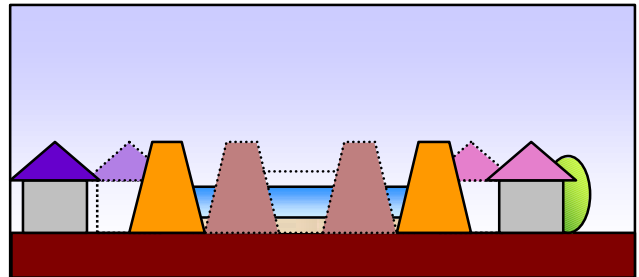
現川切下案
概算事業費 約 880億円

被害ポテンシャルの軽減が可能。
通水しながらの施工 長期化



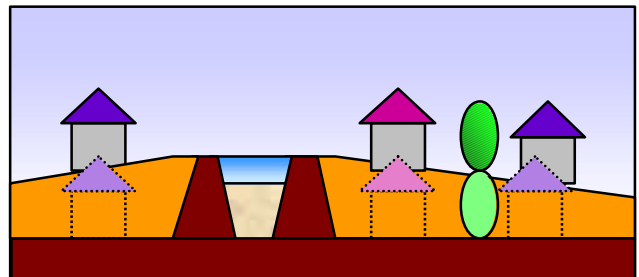
現川拡幅案
概算事業費 約 1,060億円

天井川としての形態は緩和される。
街づくりとの調整が必要 長期化



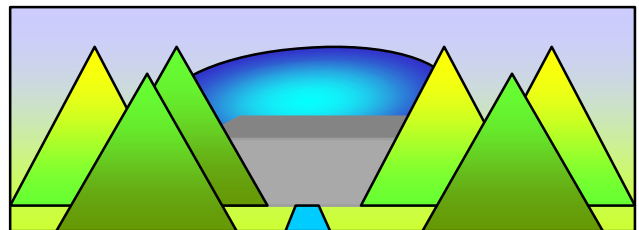
高規格堤防案
概算事業費 約 6,234億円

街づくりとの調整が必要 超長期化



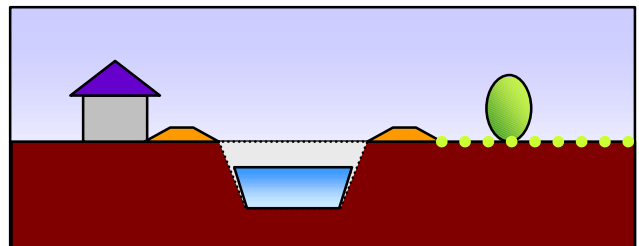
上流ダム案
概算事業費 - 億円

地形的にダム建設に適していない。
(草津川の大部分は平地であり 山岳部の流域面積が非常に小さい。)



放水路案
事業費 約 834億円

被害ポテンシャルの軽減が可能。



被害ポテンシャルを軽減させ、経済性・事業期間から放水路案を実施